秋田高校 同窓会だより Vol.107

AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

総会が秋以降に延期

新校長に渡部克宏氏
安田前校長が県教育長に就任

●あの頃の思い出 「手形中台校舎初の入学生」

交差点 ◎立田　聡 氏

エッセイ ◎藤本 透子 氏

ズームアップ ◎渡邊 桃伯子 氏、米田 賢吾 氏

異例の形で

272人が新たに仲間入りした2月29日の同窓会入会式（上）。新型コロナウイルス対策で来賓招待や校友会歌斉唱、エールなどを取り止めた。翌日の3月1日の卒業式（下）も、出席したのは卒業生と教職員だけ。在校生や父兄の姿はなく、体育館がやたらと広く見えた。

秋田県立秋田高等学校　●学校創立　明治6年（1873年）9月1日
●卒業生総数／38,917人（旧制中学7,080人、新制高校31,837人）　●在籍生徒数／820人（男子448人、女子372人）
●同窓会員数／39,385人　●物故者／9,922人　●現会員数／29,229人　［令和2年4月1日現在］
●ホームページ　http://akitahs-doso.jp　●E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

新生「若菜会」発足へ

11月に設立総会　女子卒業生全員が対象

これまで昭和45年3月卒業までの女子を会員として運営されてきた「若菜会」ですが、平成30年度の総会で女子卒業生全員を会員として新たに発足することが承認されました。「会員相互の親睦と母校と同窓会の発展に尽くす」ことを目的に、11月15日（日）に設立総会が開かれます。講演講師は2019年ナイチンゲール記章を受章された秋山正子さん（昭和44卒）です。

（若菜会運営委員会会長　髙橋裕子）

秋田高校に女子の会が発足したのは昭和29年2月。女子在校生の「若菜会」でした。

しかし、戦後の教育の激動の中で、在校生の若菜会は解散、その後は昭和45年度卒業生までを対象に運営されてきました。しかしこの度、卒業生全員を会員として新しく発足することになりました。

日本は今、少子高齢化が進み、ジェンダーギャップ指数も世界121位という現状です。このような状況の中で秋高女子卒業生の力をもっと活用し発揮すべきではないか、そのために、活躍・支援するための場をつくろうとの趣旨から、新生「若菜会」を設立することになったのです。

親睦を深め、母校と同窓会の発展に尽くすことを目的に、皆さんで力を合わせて女子の会を育てていきませんか。

設立総会は下記ご案内の要領で開催します。講演には男性、在校生の参加も歓迎します。多くの方のご参加をお待ちしております。

「若菜会」の変遷

1. 昭和26年4月　男女共学となる。（女子1期生26人が入学）
2. 昭和29年2月　秋高女子在校生の会「若菜会」発足　**（第1次若菜会）**
3. 昭和48年　在校生の「若菜会」解散。男女共学が定着し、女子生徒が増加。女子だけの会の必要性がなくなった。
4. 昭和51年　同窓会の1支部として秋高女子卒業生親睦の会「若菜会」発足。会員は昭和29年3月～昭和45年3月までの女子卒業生。**（第2次若菜会）**
5. 平成25年の若菜会で次の2点を決定。
   - 昭和45年卒幹事まで現行のまま開催。
   - それ以降、秋高女子卒業生全員を会員として新しい「若菜会」をつくる。**（第3次若菜会）**
6. 平成29年開催の若菜会で設立準備委員会設置を決定。
7. 平成30年度同窓会総会において女子の会設立についての報告を了承。
8. 令和元年の若菜会において、今までの若菜会を閉じ、来年度からの新若菜会に向けて運営委員を置くことを決定。

昭和31年冬、駅前校舎の音楽室で行われた「若菜会」の送別会

同窓会女子の会
「若菜会」設立総会のご案内

日　時　令和2年11月15日(日)
場　所　ホテルメトロポリタン秋田
　　秋田市中通7―2―1
　　018―831―2231
講　演　午前10時　講師　秋山正子氏(昭和44卒)
　　(株)ケアーズ代表取締役ほか。
　　昨年ナイチンゲール記章を受章
総　会　11時30分(写真撮影)
懇親会　12時30分
参加費　懇親会費　3,500円(写真代別途)
　　講演のみの方　500円(在校生無料)

【申し込み】
ご出席の方は、同封の色付きのはがきに必要事項を書き10月26日(月)までに同窓会事務局にお送りください。FAX、メールも可能です。

【同窓会事務局】
FAX　018―832―9588
Eメール　aki-doso@cna.ne.jp
（「若菜会」と明記願います。）

なお、懇親会出席申し込み後の欠席は、2日前(11月13日)までに事務局に必ずご連絡ください。ご連絡ない場合は会費分ご負担願いますのでご了承願います。

天上天下
TENJO TENGE

新型コロナウイルスの感染が世界中で猛威を振るっている。ワクチンも治療薬もないことから、対応策としては外出禁止など移動の制限に頼らざるを得ないという、何ともやりきれない状況だ。そして制限の厳格化はインバウンド（訪日外国人客）市場が消滅するなど経済に大きな痛手を与えている▼個人の自由が最大限尊重される現代社会にとり、移動の制限は最も不得手な分野であろう。だが、制限破りはすぐ爆発的な患者急増につながるだけに得手、不得手といっている余裕はない▼縁あって今号から同窓会だよりの編集に携わることになった。久々に母校を訪れると、校舎の壁の看板に「自主自律」の文字を見た。第28代校長鈴木健次郎先生の訓示「汝なんのためにそこにありや」を思い出し、厳しい環境にあろうとも、あるべき立ち位置と、そして進むべき道をしっかり見定めていかなければ――と改めて思った▼死者が1億人を超えたと推定されるスペイン風邪の大流行から今年はちょうど100年。不吉な思いが駆け巡るが、「明けない夜はない」という言葉もある。やがて訪れる夜明けを信じ頑張っていこう。

同窓会総会、秋以降に延期 ～新型コロナ対策で～

新緑が映え、心地よい風が吹き抜ける季節となりましたが、新型コロナウイルスの感染は拡大する一方で、それに伴い移動の制限は一段と強化されるなど、これまでにない事態の連続に戸惑う日々が続いております。同窓会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

さて新型コロナウイルス感染の終息が見通せない状況を勘案し6月に開催してきました通常総会を、本年度は秋以降に延期することになりました。それに伴い、その前段に開催しております理事会も併せて延期します。

当初の予定では、本年度の通常総会は6月21日に秋田市で開催し、令和元年度決算・事業報告、本年度予算・事業計画案等を審議いただくことにしておりました。記念講演の講師は株式会社東洋経済新報社、代表取締役社長の駒橋憲一氏（昭和50卒）を予定しておりました。

なお本年度予算案は運営委員会で原案通り承認されており、暫定的に執行することをご了承ください。

今春の進路状況

東大に東北最多の12人、東北大24人、北大14人

この3月には7クラス272人の3年生が卒業しました。全員が進学希望で、センター試験は270人が受験しました。このうち、国公立管外大学の合格者は141人で、昨年度より38人少なくなりました。

大学別では、東京大学は現役が9人、過年度卒が3人で合計12人（昨年比±0）でした。合格者数は東北地区で仙台二高と並び第1位でした。

他の国立大学では、現役と過卒を合わせて、北海道大学14人（＋9）、一橋大学1人（△1）、東北大学24人（△32）が合格しました。

医学部医学科には延べで38人（△9）が合格、そのうち国公立大学は22人（△13）でした。内訳は秋田大学16人、東北大学2人、新潟大学2人、旭川医科大学1人、筑波大学1人でした。

私立大学は現浪延べで233人が合格しました。最も合格者が多かったのは早稲田大学で17人、次いで日本大学16人、明治大学12人でした。私大全体の合格者数は延べで、現役125人（△16）、過卒108人（△2）でした。

秋田高校では高い志を掲げそれを最後まで諦めずに努力することを目標に進路指導を行っております。今年度も多くの生徒がこの目標のもと大きな頑張りを見せてくれました。この後も生徒の第一志望達成のため、教職員一同で支援していきたいと思います。

（進路指導部）

大学合格状況一覧　令和2年4月1日現在

国公立管外大

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
旭川医大	0	1	1	一橋大	1	0	1
北見工大	1	0	1	横浜国立大	3	2	5
北海道大	10	4	14	新潟大	18	1	19
北教大岩見沢校	0	1	1	富山大	1	1	2
弘前大	3	0	3	金沢大	2	1	3
岩手大	8	0	8	信州大	3	0	3
東北大	16	8	24	静岡大	2	0	2
宮城教育大	2	0	2	名古屋大	1	0	1
秋田大	29	7	36	京都大	1	1	2
山形大	0	2	2	京都工芸繊維大	1	0	1
茨城大	2	0	2	大阪大	1	0	1
筑波大	2	2	4	神戸大	1	1	2
宇都宮大	1	0	1	広島大	1	0	1
埼玉大	4	0	4	国際教養大	2	0	2
千葉大	5	0	5	高崎経大	0	1	1
お茶の水女子大	0	1	1	横浜市立大	1	0	1
電気通信大	2	0	2	新潟県立看護大	1	0	1
東京大	9	3	12	新潟県立大	0	1	1
東京医歯大	1	0	1	長岡造形大	1	0	1
東京外大	1	0	1	大阪府立大	2	0	2
東京学芸大	2	3	5	防衛医科大学校	0	1	1
東京工業大	0	1	1	国公立管外大計	141	43	184

医学部医学科

大学名	現役	過卒	計
旭川医大	0	1	1
秋田大	11	5	16
新潟大	2	0	2
東北大	0	2	2
筑波大	0	1	1
岩手医大	1	4	5
東北医科薬科大	0	1	1
自治医科大	0	2	2
順天堂大	0	2	2
昭和大	0	1	1
日本医大	0	1	1
獨協医大	1	1	2
福岡大	0	1	1
防衛医科大学校	0	1	1
医学部医学科計	15	23	38

私立大

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
岩手医大	2	4	6	国士舘大	0	1	1	日本女子大	1	0	1
東北学院大	3	3	6	駒澤大	0	3	3	日本体育大	1	1	2
東北工大	0	1	1	実践女子大	1	0	1	法政大	3	1	4
東北福祉大	4	0	4	芝浦工大	3	4	7	星薬大	0	1	1
東北医薬大	3	2	5	順天堂大	1	3	4	東京都市大	0	1	1
宮城学院女子大	2	0	2	上智大	1	4	5	武蔵野大	4	0	4
東北文化学園大	1	0	1	昭和大	3	1	4	明治大	5	7	12
ノースアジア大	0	1	1	昭和女子大	1	1	2	明星大	0	1	1
つくば国際大	2	0	2	昭和薬大	1	0	1	立教大	1	2	3
国際医療福祉大	2	0	2	成蹊大	1	0	1	早稲田大	11	6	17
自治医大	0	2	2	成城大	1	1	2	関東学院大	1	0	1
獨協医大	1	1	2	大正大	1	0	1	フェリス女大	1	0	1
駿河台大	0	1	1	大東文化大	0	1	1	新潟医療福祉大	3	0	3
獨協大	4	0	4	拓殖大	1	0	1	北陸大	1	0	1
文教大	0	1	1	中央大	2	4	6	京都橘大	0	1	1
日本薬大	1	0	1	津田塾大	4	1	5	京都薬大	0	3	3
江戸川大	2	0	2	帝京大	1	0	1	同志社大	0	1	1
神田外語大	2	0	2	東海大	3	1	4	立命館大	3	5	8
秀明大	1	0	1	東京家政大	0	1	1	大阪薬大	0	1	1
青山学院大	1	1	2	東京工科大	0	1	1	関西大	1	1	2
桜美林大	1	1	2	東京女子大	5	1	6	関西外大	2	0	2
大妻女子大	0	1	1	東京農大	0	3	3	近畿大	0	2	2
学習院大	1	0	1	東京薬大	2	1	3	関西学院大	1	0	1
北里大	1	1	2	東京理大	1	10	11	福岡大	0	1	1
慶応大	4	5	9	東洋大	1	1	2	私立大計	125	108	233
工学院大	1	0	1	日本大	13	3	16				
国際基督教大	0	1	1	日本医大	0	1	1				

※合格はすべて延べ数です

東海林太郎の直立像建立へ　同窓生らが委員会設立

秋田高校OBの国民的歌手、東海林太郎（大正5卒）は直立不動で歌う姿で知られるが、その雄姿をよりリアルに再現しようと、秋高同窓生が中心となった建立委員会が設立され、寄付を呼び掛けている。　東海林太郎直立不動像は、秋田市の県民会館跡地に建設される新文化施設（2021年度完成予定）の周辺に設置される。これまでは、解体された県民会館の敷地の一角に「胸像」が設置され、街頭に歌声を響かせていた。新たに建立する直立不動像は、この胸像からバトンを受け継ぐ形で、新文化施設の向かいにある、旧県立美術館前の千秋公園に続く通り沿いに建立が予定されている。東海林太郎と肩を並べて記念撮影ができる、新たな観光スポットとなることが期待されている。　建立委員会では、活動の趣旨に賛同する方々の募金への協力を呼び掛けている。目標額は800万円。個人は1口千円、法人は1口1万円から。詳しくは下記のホームページをご参照ください。

「東海林太郎直立不動像建立委員」
http://www.donpu.net/chokuritsufudo/index.html

今春エキマエからリスタート

株式会社秋田放送（ＡＢＳ）
代表取締役社長　立田　聡（昭和50卒）

山の上の学校はいつの時代も神々しい。懐かしい学びやなのに何か寄せ付けないものも感じるのは、誇れる足跡を残していないという負い目かもしれない。そんな私に本欄の執筆について白羽の矢が立ったのは、弊社秋田放送が秋田駅西口に新築移転したからだろう。

１９５３（昭和28）年に県内初の民放ラジオ局「ラジオ東北」として産声を上げて67年目。完全移転を果たした４月１日は当社が山王でテレビ放送を開始して60年の節目にあたる。この間、多くの県民に支えていただき悲願とも言える新社屋にたどり着くことができた。感謝の気持ちを心に刻むリスタートの春である。

新社屋の外観（ドローン空撮）

２０１０年に54歳で社長に就任した。主にディレクターと記者しか経験のない私にとってはまさに青天のへきれき。直後に東日本大震災が発生し、大規模災害時にも県民の安全安心に寄与できる社屋が必要と検討を始めたのが２０１２年だった。その後、ＪＲ東日本秋田支社の建て替えのタイミングで駅前という最高の場所を提供いただけることになり、ＪＲや県・市が進める中心市街地活性化の一助になればとプロジェクトに着手した。放送局は装置産業であり、建物以上に設備に膨大なお金がかかる。時に途方に暮れながらもない知恵を絞り、多くの皆さんに助言と励ましをもらって２０１８年３月に着工。結果的に構想から８年を要したが、コンパクトで機能的、何よりエキマエの景観にマッチし気軽に立ち寄ってもらえる放送局になったのではと思っている。

心臓部のマスター室にて

秋田駅周辺のかつてのにぎわいやテレビがお茶の間の象徴とされた時代を呼び起こすことは難しい。また、放送とインターネットの垣根が取り払われ、ＡＩや高速・大容量の５Ｇの登場でコンテンツ競争は年々加速している。そんな時代だからこそラジオとテレビの媒体価値を磨き、長年培った番組やイベントの創出力、そして新社屋に散りばめた仕掛けを生かして、〝人と人、人と街をつなぐ〟情報発信拠点でありたい。これがささやかな夢であり、お世話になった皆さんへの恩返しでもある。

秋高時代は社会部に所属し、夏休みには「巡検」と呼ばれるフィールドワークにいそしんだ。個性的な先輩たちに揉まれ地域を訪ね歩いた経験が、その後の番組づくりや報道取材に携わる原点になった。同窓会長で元文部事務次官の銭谷眞美氏、前県教育長の米田進氏、43代校長の高橋貢氏も社会部の先輩。前校長で安田浩幸新教育長は後輩らしい。

社長になって丸10年。「おめぇ～も秋高か」で他生の縁は深まり、各界で活躍する同窓生から有形無形の後押しを頂いて今がある。秋高のなせる業であろう。残念なのは、最近後輩がＡＢＳの門を叩いてくれないこと。そして、当時は文化部で吹奏楽部に次ぐ勢力だった社会部の部員が数えるほどだという現実である。『もっと、秋田が好きになる。』。ともにふるさとの元気の芽を掘り起こしたい。

Profile

たちた・さとし／1956年秋田市生まれ。早稲田大学法学部卒。1981年㈱秋田放送入社。2004年報道部長、2005年取締役報道制作局長、2008年常務取締役、2010年代表取締役社長に就任し現在に至る。この間、日本民間放送連盟理事、東北経済連合会政策議員などを務める。

稲庭うどん・そうめん製造
株式会社 無限堂
代表取締役社長 大島千明（昭和49年卒）

税理士法人 RINGS
代表社員 税理士 武田 亨（昭和49年卒）
〒010-1419
秋田市御所野堤台一丁目6番85号
TEL.018-838-7107 FAX.018-838-7106
http://rings-accounting.jp/

MASAKI EAR.NOSE & THROAT CLINIC
院長 真崎 雅和（昭和49年卒）
医療法人 真和会
真崎耳鼻咽喉科医院
〒011-0946 秋田市土崎港中央6-8-3
TEL.018-845-0234
FAX.018-847-1321
masaki@medical.email.ne.jp

140th Anniversary
小玉醸造株式会社
Kodama Brewing Co.,Ltd
代表取締役社長 小玉真一郎（昭和49年卒）
常務取締役営業部長 小玉康明（平成4年卒）
小玉智之（平成23年卒）
秋田県潟上市飯田川飯塚字飯塚34-1
TEL:018-877-2100 FAX:018-877-2104
www.kodamajozo.co.jp

人との出会いが財産

～母校の校長を4年間務めて～ 安田 浩幸・県教育長

安田 浩幸氏（昭和54卒）

八郎潟町出身。新潟大理学部数学科卒。平成26年に大館国際情報学院中・高校長、27年に県教育庁高校教育課長を歴任。28年に秋田高校長に就任し、令和2年3月31日までの4年間、母校をリードする。同4月1日、米田進氏（昭和45卒）の後任として県教育長に就任した。

校長として4年間勤務しました。高校生の10代、教諭として過ごした30代の8年間と合わせると、15年間も丘の上の校舎に通ったことになります。以前、生徒会担当をしていたこともあり、運動会や秋高祭になると今でも心躍るというか、秋田高校にいる実感を味わうことができました。また、テニス部やバスケットボール部の顧問をしていたせいか生徒が大会で活躍する姿を見るのが好きで、グラウンドやコートにもよく足を運んで応援をしました。

同窓会の皆様には、4年間本当にお世話になりました。学校への支援だけでなく、私個人にも激励の言葉をいただき感謝しております。支部総会で多くの方々と知り合うことができたのは私にとって一番の財産です。時には大先輩から駅前校舎の頃の話を伺ったり、懐かしい同級生や立派に成長した教え子と再会したり、改めて秋田高校を通してできた人と人のつながりを感じているところです。

卒業生と職員だけで行った今年の卒業式では、式辞の中で鈴木健次郎校長先生の言葉「歴史や伝統は古いからといって誇るべきことではない。秀でているものがあってこそその伝統は偉大であり、いきいきとして今も発展していてこそ貴いのだ」を紹介しました。時代が変わっても文武両道と自主自律を成し遂げ、いきいきと活躍している今の生徒たちを見ていると、間もなく創立150周年を迎える本校の伝統は偉大であり、貴いことだと実感させられます。

そんな秋田高校の中のお気に入りの場所を、3年前の生徒会誌に書いたことがあります。うぐいす坂からの眺めもそうですし、水道山が見える校舎の裏手、光が降り注ぐコモンスペース、中庭のテニスコートなど。もちろん羽城館（校史資料館）の展示室の歴史を感じることのできる空間もそうです。たくさんの思い出をくれた秋田高校と、支えていただいた同窓会の皆様に心から感謝申し上げます。

同窓会入会式 272人が仲間入り

同窓会入会式が令和2年2月29日、母校体育館で行われ、翌日に卒業式を控えた3年生272人が新たに入会した。新型コロナウイルス対策で来賓招待や恒例の校友会歌斉唱、エールなどを取り止め、例年より縮小した形での開催となった。また翌3月1日の卒業式も、卒業生と教職員のみの出席という異例の形となった。

入会式では、勤務先でのウイルス対策業務により急きょ不参加となった銭谷眞美会長からのメッセージを、佐野元彦副会長が代読した。この中で銭谷会長は、自身が在籍した当時の鈴木健次郎校長の「汝、何のためにそこにありや」という言葉を挙げ、秋田高校で学んだことを大切にして人生を豊かに歩んでほしい、と入会を歓迎した。

続いて、平成4年卒で、秋田市役所に勤務しながら秋田の活性化のための活動に取り組んでいる鈴木孝友氏が登壇。チャレンジ精神と努力を惜しまずに、自分の良さを大切にしながら頑張ってほしいと激励した。その後、佐野副会長から記念品のUSBを受け取った新入会員代表の髙橋利佳さん（元生徒会副会長）が、感謝と抱負を述べた。

令和2年度教職員人事異動

【退職】		
校長	安田 浩幸	県教育委員会 教育長
教諭	南都 勲	秋田高校 教諭(再任用)

【転出】		転出先
副校長	柘植 敏朗	五城目高校 校長
教諭	小松 直樹	秋田北高校
教諭	淀谷 誠也	県総合教育センター 指導主事
教諭	山科 あさか	秋田明徳館高校・通
教諭	岩見 進	本荘高校
教諭	糸井 大輔	秋田西高校
教諭	金岡 直人	秋田工業高校
教諭	物部 長幸	県総合教育センター 指導主事
教諭	佐藤 健一	秋田工業高校
事務長補佐	児玉 洋	西目高校事務長
事務長補佐	奥山 淳子	秋田工業高校
技能主任	川越 治	秋田西高校
臨時講師	渡邊 晃	秋田明徳館高校 非常勤講師
臨時講師	小椋 富二	
臨時講師	水澤 優香	秋田中央高校 非常勤講師

【転入】		転入元
校長	渡部 克宏	県教育庁 教育次長
副校長	伊藤 真	大曲高校 教頭
教諭(再任用)	西村 充司	県総合教育センター 所長
教諭	米川 覚	秋田北高校
教諭	加茂 玲子	秋田明徳館高校・定
教諭	牧 留美子	秋田大学附属中学校
教諭	笹渕 夏子	秋田北高校
教諭	松井 優介	男鹿海洋高校
事務長補佐	黒澤 桂一	県教育庁総務課 副主幹
主査	齋藤しのぶ	県教育庁幼保推進課
技能主任	伊藤 譲	秋田工業高校
臨時講師	佐藤 武	秋田市教育研究所 教育アドバイザー
臨時講師	藤澤 真樹	秋田北高校
臨時講師	加賀 智大	
臨時講師	高橋 奨	

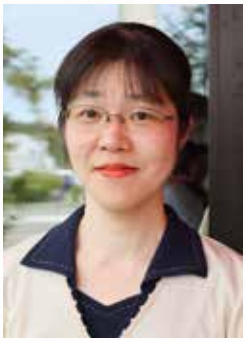
校長に渡部克宏氏（昭和55卒）

渡部克宏校長略歴

昭和36年　秋田市生まれ
昭和59年　筑波大第一学群卒
昭和59年　矢島高校笹子分校教諭
昭和62年　秋田高校教諭
平成10年　秋田北高校教諭
平成17年　県総合教育センター指導主事
平成20年　県知事公室秘書課副主幹
平成22年　県教育庁高校教育課指導主事
平成23年　県教育庁高校教育課副主幹
平成26年　県教育庁高校教育課主幹
平成28年　秋田中央高校校長
平成30年　県教育庁高校教育課長
平成31年　県教育庁教育次長

子どもへの眼差し

国立民族学博物館准教授　**藤本 透子**（平成6卒）



ふじもと・とうこ／京都大学文学部卒。同大学大学院人間・環境学研究科修了。専門は文化人類学、中央アジア地域研究。2010年から国立民族学博物館勤務。2017年から総合研究大学院大学文化科学研究科准教授を併任。著書に『カザフの子育て』『よみがえる死者儀礼』、編著に『現代アジアの宗教―社会主義を経た地域を読む』、共編著に『カザフスタンを知るための60章』など。秋田市出身。

中央アジアのカザフスタンを初めて訪れたのは、1998年だった。あまりなじみがないかもしれないが、中国の西側、ロシアの南側に位置する国で、面積は日本の約7倍ある。国土の大部分が草原で、一部には山脈もそびえる。人口は約1865万人で、カザフ人、ロシア人、その他の複数の民族が暮らす多民族国家である。

多様な文化の人々が行きかうこの地域の魅力にひかれて、私は天山山脈の麓にあるアルマトゥ市の東洋学研究所に延べ約3年間留学した。さらに、都市を離れて草原のなかの村に住み、カザフ人家族の暮らしを学ばせてもらった。

カザフ人はもともと遊牧民で、現在も村のほぼすべての世帯が、ウマ、ウシ、ヒツジ、ヤギなどの家畜を飼っている。肉やミルクを自家消費するほか、時には都市のバザールで家畜を売って臨時収入を得る。村の学校や役場に勤めたり、商店を経営している人もいる。

刺繍する女性とその孫

私が滞在させてもらった家には当時6歳の少年がいて、仔ヒツジや仔ウシが生まれたと言っては私を呼びに来て、村の暮らしを教えてくれた。カザフ人の家族は、夫妻と子ども、またはそれに夫の両親が同居する場合が多く、日本と一見似ている。ただ、長男ではなく末息子が両親の家を継ぐことや、初孫が祖父母の子として育つなど、異なる習慣もある。私が一緒に遊んだ少年も初孫で、祖父母のことを「パパ」「ママ」と呼び、いつも一緒にいた。この習慣の起源ははっきりしないが、祖先の歴史や暮らしの知識を世代を超えて教えることで、長く継承していくという意味があるようだ。

村の暮らしは厳しいが、少年の祖母は「仔ヒツジが生まれると、その仔が食べるだけの草が大地から生えてくる」ということわざを教えてくれた。その言葉は、子どもには生きていくだけの糧が与えられるという強い信念に満ちていた。

子どもは成長の節目ごとに年長者たちから祝福の言葉を受けることが大切だ、とも教わった。子どもが生まれた時、歩き始めた時、そして入学祝などには、親戚や隣人が集まって食事し、「食卓に恵みを、身体に健康を与えたまえ」、そして「この子の空が晴れているように」「子どもたちの成長を両親や祖父母がみられるように」と、祝福と祈りの言葉を口にしていた。それは、心から願ったことは現実になるという信仰があるからだった。

現在では、都市への移住により、村の人口は次第に減っている。しかし、都市に移住した息子たちは、夏に長期休暇をとり、家族を連れて村に帰る。久しぶりに会った孫を抱いて、「私の仔ウマちゃん、ちょっと匂いをかがせて！」と言いながらかわいがる村人の姿を時々目にした。五感のすべてで、まだ幼い孫とのつながりを確かめているようだった。

暮らし方は大きく異なるけれども、人として普遍的な思いが子どもへの眼差しに込められていた気がして、日本にいても時々思い出す。

春の雪でそり遊びする少年たち

ZOOM UP!

よねた・けんご／1977年6月、男鹿市生まれ。秋田大学卒業後、秋田特産品会社で物販の基礎を学び、その後、飲食店へ転職。2社でのサラリーマン経験を経て2014年9月、家業である男鹿市船越の特産品卸会社「鼎家（かなえや）」に入社。15年4月から代表取締役。

独自の米菓にこだわって

米田 賢吾（平成8卒）

2014年春、当時社長だった父から「一緒に会社をやらないか」という話があり、鼎家に入社することにしました。入社後、張り切って新規営業で20件ほど飛び込み営業をしたものの現実は厳しく、「同じ商品はもうあるからいらない」「入れてあげてもいいけど、他社より安くできるか」など、ほぼ門前払いの状態でした。

悔しさから出した答えは、「オンリーワンの自社商品を作る」というシンプルなものでした。当時は父と経営方針の違いから、なにかにつけて衝突していました。そんな中、2015年2月に自社製造菓子第一弾として、稲庭うどんでかりんとうを作り発売を開始しました。観光土産品のお菓子として予想以上に評判が良く、この商品のおかげで秋田県内外の取引店舗数が増えたことが今日の発展の第一歩だったと思います。

新商品開発のために訪れた県総合食品研究センターで、米菓等の研究員であった高橋徹先生と出会ったことが現在の米菓製造に力を入れるきっかけとなりました。「これでお菓子を作ってみませんか」と先生からひと握りのお米の煎餅用の生地を頂きました。すぐに試作をしたところ、「あ、これは売れる商品にできる」という言葉では表現できないような感覚があり、商品化を進めました。そして誕生した商品が「淡雪ふわり」という手揚げのお煎餅です。この商品が、弊社の県外販路を開拓する商品となりました。

小さな会社を継いだ私は度々、壁にぶつかりました。しかし、そのたびになぜか、人との不思議な出会いがあり、その出会いが問題を解決し前進するという日々でもありました。その後、米菓、煎餅の奥深さに触れ、商品開発をしていて自分が非常に面白いと感じた米菓の製造販売を弊社の注力する事業にすると決めました。

昨年6月、潟上市天王に自社工場と米菓匠鼎庵（ていあん）を新設しました。たくさんの方々に秋田県産米の煎餅の美味しさを分かっていただきたいという思いの詰まった店舗です。そのために、新しくこだわりの手焼きせんべいを製造販売しています。昨年は「あきた食のチャンピオンシップ2019」にて、弊社の「金の鼎庵」という甘味噌味の手焼きせんべいが奨励賞を頂きました。今後もお客様に喜んでいただける商品開発をし、「秋田の煎餅といえば鼎庵」と言われるように日々努力していきたいと思っています。

ハマのおせっかいおばさん

渡邊 桃伯子（瀬戸 智子／昭和50卒）

18歳で秋田を離れて45年、横浜に住んで30年になります。本業は、業務システムの開発やWebサイト制作等を業務としている零細IT企業の経営者なのですが。いつの頃からか「ハマのおせっかいおばさん」と呼ばれ、横浜で「世話焼き」人生を送っています。

きっかけは、2010年5月のWebマガジンの発行でした。「横浜」を「人」を通して情報発信する「ヨコハマNOW」というWebサイトを立ち上げました。それから10年。「大人の学級新聞」として、大勢のボランティアライターに支えられ、毎月1回配信して2020年4月で120号になりました。

この10年を振り返ってみるといろいろな出来事がありました。2011年の東日本大震災が起きた直後には、「ヨコハマNOW」に私が書いた「物資支援のお願い」が友人から全国に発信され、我が家には全国各地から300箱を超える衣類が送られてきました。支援物資をトラックに積んで宮城県山元町に向かったのは、2011年4月6日。そのご縁で、横浜市中区の「山元町」と宮城県「山元町」をつなぐことになり、横浜の山元町商栄会の活動によって、横浜市が宮城県山元町を全面支援するまでに広がっていきました。あなたは何屋さん?と聞かれるようになったのはその頃からです。

2015年2月に横浜で開催された「全日本製造業コマ大戦世界大会」。ボリビアの2人の若者が経済的理由で大会に出場できないと聞いた私は、「ボリビア・コマ基金」を創設して、彼らを招聘しました。このときは秋田高校の仲間たちがSNSで情報を拡散し、募金に協力してくれました。横浜在住の尾形淑子さん（旧姓・井川 昭和52卒）は、ボランティアでスペイン語通訳をやってくれました。秋田高校ネットワークの素晴らしさに感謝です。「ヨコハマNOW」主催の「盆栽カフェ」も60回を迎え、世代・ジャンルを超えた交流の場になっています。

「人生100年時代」、私もまだ40年あります。これからも定年退職した夫と二人三脚で地域に根差した社会活動をやっていきたいと考えています。まずは新型コロナウイルスで経済的な被害を受けている中小零細企業のサポートをしていきます。「おせっかい」はまだまだやめられません。

わたなべ・ともこ／1956年秋田市生まれ。一橋大学経済学部卒業後、1989年に株式会社ともクリエーションズを設立。1990年筑波大学大学院経営システム科学専攻（経営学修士）修了（1期生）。2010年からWebマガジン「ヨコハマNOW」を主宰。現在は、NPO法人神奈川中小企業活性化センターなど複数のNPO法人活動に関わっている。

あの頃の思い出 ▶6◀

うぐいす坂緊張し登校

手形中台校舎 初の入学生

小泉 亮道（73）＝昭和40卒

こいずみ・りょうどう／昭和21年11月秋田市生まれ。40年秋田高校卒業。47年弘前大学医学部卒業後、同大学第一外科に入局。53年5月医学博士授与。53年8月秋田大学医学部第一内科に移り勤務、58年8月小泉病院院長。平成19年4月同病院理事長。昭和58年11月より秋田高校「校医」、現在に至る。

秋田高校が手形山の新しいキャンパスに移った昭和37年春、その時の初めての入学生が私たちでした。卒業後55年になりますが、当時の思い出を書くよう依頼され筆を執りました。

私たち昭和40年卒は、同期会「四〇会」として2年ごとに集い、親睦を重ね、昨年も開催されました。これまで2度、記念誌を発行しています。平成18年9月に、還暦を迎えた記念誌「山の上で燃やした青春―Ⅱ」は同期みんなの思いがつまった120ページの内容あるものです。ぜひお読み下さい。

当時を振り返ってみますと、私の通学路は、歩いて片道40分ほどで、天気の時は自転車通でした。普段はげた履きで、冬は長靴でした。当時は秋田駅から市営バスが「秋高線」として坂の上の校舎前まで往復し、多くの生徒、先生方が利用していました。道路は、秋田大学の鉱山博物館までアスファルトで簡易舗装されていました。昭和36年秋田国体の時、天皇陛下が博物館へご来賓下されるため舗装されたのです。手形球場から校舎までは砂利道で、バスが砂ぼこりをあげて通り過ぎていく状況でした。道路と並行して営林局のトロッコ線路が走り、仁別から材木を積み秋田駅へ運んでいました。今は歩道やサイクリングロードとして、その痕跡を残しています。周辺に家屋など全くなく田畑が広がり、冬の荒天の時は地吹雪となり、白い川の流れの中を歩いているようでした。うぐいす坂には桜とツツジが植樹されていましたが、まだ幼木でほんの少しの花を咲かすだけでした。50年を過ぎた今、老木となっていますが、手入れがよく立派な花が咲き誇っています。

手形中台校舎開設当初、正門へ続くうぐいす坂は砂利道だった

2、3階はベランダが通路

キャンパスには、野球場、陸上競技場も整備され、テニスコート、弓道場もあり、広い体育館はバスケットボールコートが2面とれ、よく遊びました。体育館に隣接して25メートルプールもあり、クラス対抗では水泳のリレーなどもありました。

新校舎は3階建てで、1階には廊下がありましたが、2階3階にはなくベランダが通路となっていました。体育

Sano PHARMACY
佐野薬局
秋田市保戸野通町3−31
株式会社サノ・ファーマシー
代表取締役 佐野 元彦（昭和49年卒）
取締役副社長 佐野 克彦（昭和59年卒）

おのれを修めて 世のためつくす
がんばれ秋高生！
昭和59年卒業 同期生一同
（年次代表）三浦 亨（昭和59年卒）

創業明治30年 八郎湖名産
佐市の佃煮
株式会社 千田佐市商店
代表取締役社長
千田 清隆（昭和49年卒）
〒018-1401
潟上市昭和大久保字片田千刈田428-3
TEL018-877-3208 FAX 018-877-4812
URL http://www.chida.co.jp/

えのき こどもクリニック
ENOKI KIDS CLINIC 小児科・アレルギー科
榎 正行（昭和49年卒）
榎 真美子（平成3年卒）
〒010-0972
秋田市八橋田五郎2−13−18
TEL：018−866−0505

館とは地下通路でつながっており、全校集会などでは大勢で渡っていました。食堂は当時からあり、昼は大混雑でなかなか食べられず、パンを買うことが多かったです。新しい教室なので、クラスデコレーションなども壁にくぎを打つことが禁止され、コンパネの上だけで製作するよう指示されました。

応援団は高げたが普通の姿

私たちの学年は536人で10クラス、うち女子は39人、2クラスが共学となっていました。現在は一学年約280人、7クラス、うち女子が約半分を占める状況では、運動クラブの活動継続が難しくなっているのが理解できます。恩師の先生方は、ユニークな人物が多く、あだ名をつけ呼んでいました。私たちの時代は、応援団は高げたで歩いているのが普段の姿で、丸刈りが多く、服装の自由化もまだない殺風景な時代なのですが、自然には大変恵まれていて、裏の手形山は遊び場でした。山野草も種類が多く、春先にはミズバショウも咲き、新任の先生に差し上げたりしました。夏は秋高やぶ蚊に悩まされましたが、秋は栗拾い、冬はスキーに興じ、四季折々本当によく遊びました。そして語り合う友達がたくさんいました。

昭和38年秋、アメリカから初のテレビ衛生中継が早朝あり、その時流れてきた映像はケネディ大統領暗殺のニュースでした。ちょうど秋高祭の時で、県民会館でブラスバンドの演奏会があり、みんなで黙とうしてからドボルザークの「新世界」が演奏されたことが思い出されます。

手形中台校舎（昭和37年～60年）の航空写真

同級生との一枚。右端が筆者

明治6年の創立以来、移転を繰り返した秋田高校も昭和36年12月に落成記念式典を挙行し、手形山に腰を据えた

汝なんのためにそこにありや

私たちの時の第28代校長鈴木健次郎先生はハーバード大学のジョンソン教授の言葉を引用して「汝なんのためにそこにありや」と生徒に訓辞されました。私たちに自主自律を求め自覚ある生活をし、求められる社会的使命に向かうよう指導されました。いかに新しい校舎の中にあっても、秋田高校が永い歴史や伝統などの精神風土の中で、お互いが努力し合い、厳しい日常生活を送る必要を問うたと考えます。

うぐいす坂を緊張しながら登り入学した日から過ごした3年間は、本当に充実した日々であったとしみじみ思います。ふり返ると、素晴らしく誇りに思う秋高であり、優秀な先生方、心から通じ合える友人たちと出会え、今の自分があると感じています。「感謝」の一言です。

（写真は筆者提供）

太平山三吉神社
宮司 田村 泰教（昭和59年卒）
秋田市広面字赤沼3－2
☎018－834－3443

在宅療養支援診療所
小平すずきクリニック
院 長 鈴木道明（昭和59年卒）
〒187-0041 東京都小平市美園町1-15-2 プレミール小山405
TEL.042－349－0015
FAX.042－349－0020

院 長 山本高敬（昭和59年卒）

ひがしとおり歯科医院
〒010-0003 秋田市東通3-10-15
0120-76-8867
FAX 018-831-8867
診療時間
月～金 午前9:00～午後1:00
午後2:30～午後6:00
土 曜 午前9:00～午後1:00
休 診 日曜・祝日
http://www.hahappy.com

山本歯科医院
〒014-0311 仙北市角館町田町上丁50-2
0120-51-2058
FAX 0187-53-2058
診療日は月・火・木・金のみ
診療時間
午前9:00～午後12:30
午後2:30～午後 6:00
http://www.yama-dent.jp

つどい TSUDOI

新名称は「横手支部」

横手・平鹿支部

令和2年2月20日、横手市の松與会館にて横手・平鹿支部の総会が行われた。会員の高齢化と諸行事が重なり16人の少数精鋭の会であったが、まずは会が開催されたことに意義があると思っている。

大塚支部長の挨拶に続いて、佐野元彦同窓会副会長から同窓会の活動、学校の現状についてお話をいただいた。続いて役員人事については、高橋昭博氏（昭和44卒）を新支部長に選任するなど新体制で2年間支部を運営することになった。また、市町村合併で消滅した“平鹿郡”の名前を取り新名称を「横手支部」とすることにした。

新支部長の挨拶と乾杯の後、懇親会に入った。例年だと全員のスピーチがあるのだが、今年は各テーブルでの話に花が咲き、司会者の不手際も相まってお開きの時刻が迫っていた。代表して最年少の横手高校の古谷祥多先生（平成20卒）にスピーチをいただき、“飲み放題プラン”終了直前の21時に終了した。

送付した案内状が76通、返事をいただいたのが45通。残りはどこへ行ってしまったのでしょうか?本人だけでなく家族の協力がないとこの差は埋まらないのかなと感じ、次回に向けての課題としたい。　（幹事・曽根 純之＝昭和54卒 記）

締めは事務局長のエール!

大館支部

昨年12月9日、令和元年度大館支部総会は本部から柏木事務局長、安田校長をお迎えし、「北秋くらぶ」にて総勢30人により開催されました。伊藤碩彦支部長（昭和35卒）が秋の叙勲で旭日小綬章の栄誉を受けられたお披露目で始まり、総会は冒頭からお祝いムードに包まれました。

来賓の方々による母校の現況のお話、出席者全員の現況報告等で懇親を深め、締めくくりには柏木事務局長からサプライズのエールをいただき!!!大盛会のうちに終了しました。

なお席上、伊藤支部長が後進に道を譲りたいとのことから、新支部長として、佐藤茂範氏（昭和41卒）が全会一致の拍手をもって選任されました。伊藤先輩には9年間支部長として大館支部を支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。どうか今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

（幹事・鬼川 光洋＝昭和52卒 記）

秋高音頭伝承会も4年目に

紫紺の会

昨年12月14日、秋田市大町の居酒屋を会場に忘年会を開催しました。初参加や久々に参加のメンバーを含む12人が参加、令和最初の1年や新たな年について語り合いました。

忘年会に先立つ12月11日には、4年目となる秋高音頭伝承会を母校で実施しました。インフルエンザ流行の影響で参加できない生徒もいましたが、前年も参加した生徒を中心に少数精鋭で練習に取り組みました。この練習をきかっけに、生徒自身が歌や踊り、応援の型などを後輩に伝えるという、本来の姿を取り戻すことを願っています。

（保坂 尚吾＝昭和55卒 記）

初めて女性3人が参加

五城目支部

令和2年2月22日、同窓会五城目支部・紫城会総会・新年会を開催しました。

今回は同窓会五城目支部始まって以来、初めて女性3人の参加があり、近隣の町からのゲストを加え総勢25人で華やかな会になりました。

長年支部長を務められました越後市朗氏（昭和20卒）が残念ながら引退することになり、また事務局も菅原孝次郎氏から平成11卒の若手の猿田和孝氏にバトンタッチされ、新たな気持ちでスタートしました。

本部から同窓会企画委員長の佐藤悦紹氏が来賓として出席され、進路状況や部活動の活躍、同窓会の状況など説明がありました。

今後五城目支部同窓の絆を益々深めるとともに、母校の活躍と発展を願っております。（支部長・伊藤 惠朗＝昭和32卒）

❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉

ナマハゲの如く意気盛んに

男鹿支部

令和を迎えてから初の総会と懇親会を昨年11月8日、ホテル諸井にて開催した。当日は来賓として山城寛幸教頭と柏木幹夫同窓会事務局長からご出席をいただき、総勢25人が集まり、高校生活や部活動、男鹿線での列車通学などの思い出話で大いに盛り上がった。

25人のうち、昭和29卒が7人、30年・31卒の3人を合わせると80歳以上の先輩方が総勢10人、秋高時代と変わらないエネルギーにあふれた姿でひと時を過ごされていた。

昭和から平成までの世代が集合した懇親会は、瞬く間に時が過ぎ、今津谷勉支部長（昭和37卒）のリードによる校歌斉唱に続き、澤田正司副支部長（昭和31卒）のご発声により中締めとなった。

平成30年11月に、ユネスコ無形文化遺産に「来訪神：仮面・仮装の神々」の一行事として登録された「男鹿のナマハゲ」にも負けないパワーで今後も一層活躍し、来年もまた元気に再会することを期して散会した。

（事務局・沼田 弘史＝平成2卒 記）

母校の発展と地域貢献を確認

秋田市役所羽城会

秋田ビューホテルで1月10日、172人が参加し、秋田市役所羽城会総会を開催しました。同窓会から銭谷眞美会長、安田浩幸校長を来賓に迎えたほか、顧問の石井周悦副市長（昭和48卒）や佐藤孝哉教育長（昭和53卒）、特別会員の市議会議員、監査委員の皆様など多数の方にお越しいただきました。

総会では決算、予算案が承認されたほか、新会長の新出康史氏（昭和56卒）をはじめ各役員が選出されました。総会に続き懇親会が行われ、石井副市長から市職員は敬天愛人の精神で地域に貢献すべきとのご挨拶や、安田校長から在校生の進学や部活動等のご報告、銭谷会長から乾杯のご発声をいただき、賑やかな宴が始まりました。新入会員紹介では、8人のうち7人が参加し、自己紹介の後、秋高オリジナルのスポーツタオルを贈呈して入会を歓迎しました。

最後に、岩谷政良市議会議長（昭和42卒）のリードで、校歌を5番まで斉唱。全員の歌声が場内に響き渡り、令和最初の総会は大いに盛り上がりました。

（事務局・加藤　悟＝平成3卒 記）

創立40周年を祝う

札幌支部

昨年10月19日、同窓会から半田和彦150周年誌編集特別委員長、母校から安田浩幸校長をお迎えし、札幌のホテルノースシティにおいて支部創立40周年記念総会を開催しました。

前半は記念講演。今回は贅沢にも理系と文系の2本立て。1本目は支部会員の田近淳さん（昭和48卒）による「北海道の自然災害から」。北海道内での自然災害事例や命を守るためのリテラシーをご教示いただいた。2本目はご来賓にもかかわらず、講演をお引き受けいただいた半田さんによる「秋田藩の蝦夷地調査」。貝塚清直の日誌に基づいたご研究です。講師のお二方には、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

後半は総会と宴席。お酒が回るにつれ、楽しいお話と踊り、そして校歌斉唱。少子高齢化に伴い、参加者の減少と固定化が顕著ですが、今回は初参加者も数人あり、事務局としてはとてもありがたかったです。

近年、若い世代には何かと嫌われた感がある職場の飲み会や同窓会ですが、世代を超えて「秋高生」に戻ることができるこの場が大好きです。

（事務局・佐々木 宏志＝昭和61卒 記）

都大路をめざして激励会

陸上競技部OBOG会

昨年10月19日、翌20日に行われる全国高校駅伝秋田県予選大会の激励会を八橋陸上競技場で開催しました。OBOG会の佐々木会長、三船顧問が、男女ともに出場できることへの感謝と、各自が自分の走りに集中して、しっかりと次の人に襷をつなぐことを心がけてレースに臨むよう激励しました。

それに応えて選手から、「笑顔で襷をつないで都大路をめざす」という頼もしいことばがあり、1年を締めくくる大会への意気込みが強く感じられました。

写真1は激励会の集合写真、**写真2**は一ツ森公園をスタートした直後の女子の様子で、左から3人目が1区の長岐ももこさん。結果は男子9位、女子7位と前年より順位を上げました。

（事務局・榎 昌範＝昭和50卒 記）

写真1

写真2

「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。**原稿は概ね400字（原稿用紙1枚）**を目途にお願いします。

卒業20周年、初の参加者も

平成12年卒同期会

去る1月2日、秋田キャッスルホテルにて平成12年卒業者による同期会を開催しました。卒業10周年、15周年と続き3回目。8人の恩師と40余人の同期生が参加しましたが、初めての参加という方も多く、過去2回と比べても各々また新鮮な気持ちで臨むことができたのではと思います。

中盤では各クラスの代表者による近況報告がありました。仕事での成功談やプライベートでの失敗談などさまざまなエピソードを笑いを交えながら話しました。終盤には恩師の方々に一人ずつご挨拶を賜りました。教壇に立つ教師さながらのお姿は20年前を想起させるに十二分であり、タイムスリップしたかのような不思議な空間に包まれました。大盛りあがりの会は2時間半の予定を大幅にオーバーし、大団円で終わることができました。

筆を走らせている現在、全世界で新型コロナウィルスが猛威を奮っております。一刻も早い状況の打開と、同期生、同窓生の皆様方のご健康ご多幸を祈念致しまして結びとさせていただきます。また次回、卒業25周年同期会にて。

（小助川 充崇 記）

当時の秋高祭の様子上映

卒業10周年の平成22年卒同期会

2020年という西暦の区切りの年に、私たち平成22年卒も節目となる卒業後10周年の記念同期会を開催しました。1月2日、秋田ビューホテルにて開催した本会は、同期生126人に加え、和田央先生をはじめ7人の恩師の皆様にもご参加いただきました。

冒頭、秋高祭リバイバルというテーマに合わせ、当時の秋高祭で使用した映像を再編集したものを上映したところ、10年前の自分たちの姿に大盛り上がりでした。終盤には今年度で退職される和田先生にこれまでの感謝を込めて花束を贈呈しました。中締めではこの日のために岩手からお越し下さった阿部淳先生からご挨拶と締めの乾杯をしていただきました。その後のホテル内での2次会にも100人近い方にご参加いただき、最後の最後まで旧交を温めることができました。

次回は5年後、卒業後15周年での開催です。その間、30歳の節目を迎えたり、仕事上のキャリアアップがあったりと、各自が激動の5年間を過ごすことと思います。また笑顔で会えるよう健康で充実した日々を過ごしたいですね。

（越中谷 優一 記）

卒後30周年、恩師6人招く

平成2年卒同期会

令和2年1月2日に、『秋田高校平成2年卒業30周年記念同期会』を秋田ビューホテルにて開催しました。来賓には、松田至弘先生、亀田弘子先生、渡辺義人先生、柴田義弘先生、佐藤義隆先生と畠山真一先生にご出席いただきました。ちょうど一年前に同期会幹事の武内伸文君、遠藤義隆君、河村とで今回の同期会を企画し、各クラス幹事にSNSやメール等で連絡を取り、当日100人の参加がありました。

同期会では、幹事を代表して河村が、秋田高校の現状、また年1回のプチ同窓会を秋田で開催していること、今回の同期会開催の経緯などについて話をし、開会の挨拶をしました。その後、松田先生より来賓の挨拶を頂き、和服姿の佐々木広人君の乾杯でスタートしました。中盤では、恩師の先生への花束贈呈があり、それぞれの先生から近況について話していただき、大変賑やかな同期会となりました。最後に当時応援団の遠藤暁君、安養寺美行君、渋谷道彦君がリードを取り、応援歌を皆で熱唱しました。またの開催を願い、名残惜しい気持ちで閉会となりました。

（河村 希典 記）

脂の乗り切った我々世代

卒業25周年の平成7年卒同期会

令和2年1月2日、秋田キャッスルホテルにおいて、恩師を含む85人が参加し、卒業25周年を記念する平成7年卒業生の同期会を開催した。

生徒会長石塚智之君の開会の挨拶に続き、恩師を代表して山本長幸先生が再会を祝し乾杯。県内外で活躍する同期生が近況報告を兼ねたスピーチを披露し、締めはラグビー日本代表の如く参加者全員で肩を組み、声高らかに校歌を斉唱し散会した。

令和の始まりに、秋高同期で集えたことに大きな意義を感じている。新たな時代に一つでも多くのポップコーンが弾けるよう、「脂の乗り切った」我々世代が世のために尽くしていきたい。

（佐藤 寛也 記）

令和2年度
年会費納入のお願い

会員の皆さまには日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、秋田高校同窓会の運営は、その財政基盤のほとんどを会員の皆さまの年会費に依存しております。円滑な同窓会活動を推進するため、令和2年度の年会費納入にご協力を賜りますようお願い申し上げます。同封の払込取扱用紙でコンビニまたは郵便局で納入くださるようお願いいたします。**経費削減のため、できるだけコンビニ（期限あり）を優先してご利用ください。**

また財政委員会では現在、会費の口座自動振替を進めています。納入手続きの煩わしさを解消し、〝うっかり忘れ〟を防止するとともに経費節減を図るためです。

口座自動振替をご希望の会員は払込取扱用紙にある金融機関名（秋田銀行、北都銀行、ゆうちょ銀行）を選び、所定の欄にご記入のうえ同窓会事務局にお申し込みください。その際、今年度分の年会費はコンビニではなく、最寄りの郵便局からお振り込みいただくようお願い申し上げます。

年会費に関する取り決めは以下のとおりです。

1. 年会費は会員1人当たり2,000円とする。
2. 年会費の請求は単年度のみとし、過年度分は請求しない。
3. 母校卒業後4年間は年会費の納入を免除する。

（財政委員会）

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきました

平成28年
- 1月 佐藤 健（昭38）
- 3月 大槻 利夫（昭32）
- 5月 堀井 藤浩（昭28）
- 8月 伊藤 輝幸（昭40）
- 9月 小松 長成（昭26）
- 11月 佐藤 純（昭35）
- 12月 進藤 聆爾（昭30）

平成29年
- 9月 豊田 博（昭31）

平成30年
- 6月 佐々木辰郎（昭20④）

平成31年
- 2月 山谷 和彦（昭35）
- 2月 栗原 秀俊（昭49）
- 3月 伊木 郁夫（昭28）
- 4月 赤木 信久（昭31）
- 4月 斉藤 慎悦（昭31定）
- 4月 石郷岡三郎（昭29）
- 4月 山田 将（昭23）

令和元年
- 5月 寺山 誠行（昭31）
- 5月 渡辺 賢美（昭34）
- 5月 宇佐美征喜（昭37）
- 6月 金子 匡雄（昭38）
- 6月 松井 正志（昭32）
- 7月 丹 宣雄（昭35）
- 7月 佐藤 繁（昭27）
- 8月 工藤 信義（昭20⑤）
- 8月 平澤 正昭（昭33）
- 9月 高橋 忠雄（昭29）
- 9月 五十嵐隆一（昭17）
- 9月 池田 榮勝（昭39通）
- 10月 髙橋 稔（昭23）
- 10月 三浦金次郎（昭16）
- 10月 佐藤 順明（昭32）
- 10月 飛田悦二郎（昭21）
- 10月 渡邉 万助（昭33定）
- 12月 川田 剛熙（昭35）
- 12月 門間 英也（昭26）
- 12月 佐々木良一（昭40通）
- 12月 高橋 和正（昭42）
- 12月 村井 悟（昭51）
- 12月 嵯峨 哲次（昭25）
- 12月 榊 武繁（昭15）
- 12月 高橋 良昭（昭37）
- 12月 佐藤 金光（昭26）
- 12月 石塚 正雄（昭31）
- 12月 小野 雄司（昭30）
- 12月 畠山 俊一（昭46）
- 12月 佐藤 明郎（昭40）
- 11月 西村 慧（昭30）
- 11月 田口 宗良（昭33）
- 11月 佐々木郁夫（昭40）
- 11月 成田 昭二（昭27定）
- 11月 佐藤 一雄（昭35）
- 11月 飯坂 照雄（昭36）
- 11月 亀田 充子（昭39）
- 11月 佐々木 裕（昭41）
- 11月 加藤鉄太郎（昭33）
- 11月 藤井 久男（昭28）
- 12月 西田 幹（平02）
- 12月 大平 温（昭33）
- 12月 志賀 鐵郎（昭20⑤）
- 12月 富岡 勝人（昭37）
- 12月 井上 健（昭44）
- 12月 寺田 浩（昭28）
- 12月 福田兼四郎（昭25）
- 12月 平澤 久男（昭27）
- 12月 今野 孝太郎（昭29）
- 12月 間山 哲夫（昭31定）
- 12月 菅原 義晄（昭28）
- 12月 藤島 修一（昭44）
- 12月 和田 明（昭21）
- 12月 藤原 英悦（昭20④）
- 12月 加藤 日出男（昭21）
- 12月 佐藤 公明（昭33）

令和2年
- 1月 土田 升（昭25）
- 1月 石川 斌一（昭27）
- 1月 齊藤 壽彌（昭28）
- 1月 松本 典之（昭20④）
- 1月 小西 秀朗（昭31）
- 1月 石川 新悦（昭33）
- 1月 松橋 光雄（昭30）
- 1月 石澤 良一（昭27）
- 1月 齋藤 忠男（昭34）
- 2月 吉川 孝男（昭31）
- 2月 高井 昭二（昭20⑤）
- 2月 藤嶋 正美（昭35）
- 2月 沼田 由勝（昭27）
- 2月 横田 忠二（昭37）
- 2月 加藤 隆一（昭34）
- 2月 嵯峨 敏美（昭32定）
- 2月 豊田 成昭（昭43）
- 2月 辻 宏（昭32）
- 2月 三浦 巖（昭20）
- 3月 米屋 晋作（昭25）
- 3月 児玉 實（昭30）
- 3月 高橋 壽男（昭30）
- 3月 船木 征次（昭38）
- 3月 高桑 秀男（昭38）
- 3月 西村 行夫（昭28）
- 3月 佐藤 進（昭41）
- 3月 大竹 東（昭38）
- 3月 神成 正衛（昭20④）
- 3月 永井 清治（昭36定）
- 3月 根布谷良一（昭29）
- 3月 星野 芳男（昭18）
- 3月 小沼 英一（昭28）
- 3月 岡村 時雄（昭41）
- 3月 萬田 欽也（昭33）
- 3月 越中 浩（昭20⑤）
- 3月 進藤日出夫（昭23）
- 3月 會場 愛世（昭25）
- 3月 小野 又雄（昭18）

注（昭20④）は旧制中学を4年で卒業、（昭20⑤）は5年で卒業したことを表す

ひとりひとりにお応えします
不動産の名義変更
会社設立の登記
相続の相談
司法書士 佐藤 知美（平成6年卒）
〒010-0802 秋田市外旭川字梶ノ目457番地1
TEL 018-827-3277 FAX.018-827-3288
http://www.shihou-akita.com

相馬 貴幸
（平成6年卒）
あきたきた整骨院
〒010-0146
秋田市下新城中野
琵琶沼166-16
TEL 018-853-9849

山王けやき薬品
KEYAKI
HEALTHY & BEAUTY
飯田 誠（昭和59年卒）
☎018－866－0770
〒010－0951 秋田市山王５丁目14－1
FAX.018－867－0071
E-mail info@sanno-keyaki.com
URL www.sanno-keyaki.com

有限会社セーフティ保険コンサルティング
（社）日本損害保険協会 損害保険トータルプランナー
（社）日本LCQS生命保険証券診断士
SAFETY Insuranse Consulting
金澤 武
代表取締役
TAKESHI KANEZAWA
（昭和59年卒）
秋田市土崎港中央5丁目6番22号 〒011-0946
TEL/018-845-6310 FAX/018-845-6326
E-mail:t-kanezawa@safetyic.com
HP-address:www.sonpo.ne.jp/agent/safety/

郷土芸能を感じる

3年　照山 悠駿

8月に秋田市で行われる秋田竿燈祭りに参加した。小学生と中学生の時は学校の竿燈会として参加していたが、今年は一般の町内会に入会した。ずっとお囃子ではなくて竿をあげる差し手として参加していたが、一番大きな種類の竿である大若を持つのは初めてだったので、慣れないうちは持つので精いっぱいだった。しかし毎日練習を重ねることで次第に上達していき、さまざまな技を身につけることができた。

祭り本番では、遠くから足を運んで見にきてくれたお客さんを楽しませることを第一に演技をした。祭り独特の雰囲気を肌で感じながら、同じ町内の先輩や友達と団結して自分も楽しむことができた。

祭り期間中に行われる技の巧拙を競う妙技大会では、自分の所属する町内が団体戦規定演技で予選1位通過し、他の個人や自由演技でもいい結果を残した。そのような機会に自分が立ち会えたことをとても誇りに思う。

今年は大学受験を控え、進学の際は県外に行こうと思っているので今までのように祭りに参加することは難しくなるが、秋田の郷土芸能はその雰囲気や内容全てを含めて好きなので、それを守ったり実際に参加したりする活動に少しでも関わっていきたい。

竿燈祭り本番の風景

誰もが夢を持てる世界に

2年　平尾 織花

2019年JICA国際協力高校生エッセイコンテストで国際協力特別賞を受賞しました。コンテストのテーマは、「世界とつながる自分、私たちが考えること、できること」でした。エッセイには昨年の夏、ユネスコ協会のカンボジアスタディツアーへ参加し、滞在中に接した人の温かさや、日本との関係、国際協力はどうあるべきかなど自分が感じた思いを書きました。

首都プノンペンでは、急速な都市開発が進む一方、農村部では電気や水が通らず、物売りをする子供もおり、深刻な格差を感じました。現地の学校を訪問した時には、子供たちの学びたいという意欲、希望に衝撃を受けました。彼らは困っている人を助けたいという夢を持ち、そのためにも、もっと勉強したいという熱意で溢れていました。そして、そんな子供たちは私に自分の将来について改めて考えるきっかけを与えてくれました。

どれだけ遠くの国で起きている出来事だとしても、教育問題や貧困は決して他人事ではありません。カンボジアの現状を知ることで、私はその現実から目を背けてはいけないと強く実感するとともに、1人でも多くの人が国際協力に関心をもってもらえるよう、多くの人に伝えていきたいと思いました。

リエンダイ寺子屋での子どもたちとの集合写真

秋田海雲塾
伊藤 宣高
（平成6年卒）
潟上市天王字二田228番地17
090−4553−8436
E-mail:kaiun@theia.ocn.ne.jp

株式会社 越中谷写真商会
TEL：018-845-1573　FAX：018-846-6968
振袖専門店 オンディーヌ秋田店
TEL：018-853-7688　HP：https://www.ondine.jp/akita/
〒011-0946 秋田市土崎港中央2丁目2-4
取締役会長　越中谷 正美（昭和29年卒）
代表取締役　越中谷 孝一（昭和59年卒）
常務取締役　越中谷 正博（平成6年卒）
技術営業部　越中谷 優一（平成22年卒）

高橋重剛法律事務所
弁護士
高橋重剛（じゅうこう）
（平成6年卒）
〒015-0874
由利本荘市給人町7-3 本荘合同ビル1-2
TEL 0184-44-8241 FAX.0184-44-8242

信頼の炎を燃やして…
有限会社ワタナベ燃料
専務取締役　渡部 亮
（平成6年卒）
〒018-1711 南秋田郡五城目町高崎字里下80-4
TEL：018-852-3355　URL：https://watanen.jp
秋田市内の灯油配達は…
スマイル灯油センター
0120-841-373
スマイル灯油　検索

理数科筑波研修を終えて

3年　泉　千花穂

1月に実施された筑波研修では、たくさんの施設を訪れました。筑波研修の魅力は、自分の目と耳で間近にサイエンスに触れられるところです。皆が特に盛り上がった〝体験〟スポットを紹介します。

1つ目は「サイバーダインスタジオ」です。リハビリに用いられるロボット「HAL®」の遠隔操作を一人ひとりが行いました。HALは、人がつけた電極から「動かしたい！」という電気信号を感知し、自身の腕を曲げ伸ばします。そこで、「自分の腕は曲げずに電気信号を送るだけでHALの腕を曲げる」という挑戦をしました。かなり難しかったのですが、皆楽しくチャレンジしました。

2つ目は「地図と測量の科学館」です。3Dめがねをかけて、上空150～200㎞ほどからの空中散歩を楽しみました。とても立体的に見えてわくわくしました。阿蘇山のカルデラや富士山、日本海溝など、見どころがたくさんありました。

筑波研修ではサイエンスを体感する興奮を味わい、それを皆と共有することで濃い時間を過ごすことができました。将来につながる充実した3日間でした。

KEK（高エネルギー加速器研究機構）にて

騎士道を学んで

2年　髙野　太陽

私がフェンシングを始めたきっかけは、小学5年生の時に「AKITAスーパーわか杉っ子発掘プロジェクト」に参加したことでした。

フェンシングの発祥はヨーロッパ中世騎士道華やかなりし頃、身を守ることと名誉を守ることを目的として磨かれ発達してきた競技で、第1回近代オリンピックから毎回オリンピック正式種目になっている伝統ある競技です。また、「フルーレ」「エペ」「サーブル」という3つの種目があり、突いた時にポイントとなる有効面の位置と攻撃の優先権に違いがあります。騎士道からくる礼儀正しさ、華麗なプレー、頭脳的なかけひきが魅力です。多くの人に知られているスポーツではありませんが、最近ドラマで取り上げられ話題となっているスポーツです。

私はフェンシングという競技に出会えたことで全国規模の大会や合宿に参加することができ、礼儀を学んだり、多くの人と交流したりすることができています。これからも練習に励み、良い結果を残すことを意識しつつたくさんの経験を積んで、自分の成長に努めていきたいと思います。

第74回国民体育大会（手前が筆者）

郷土秋田を、力強く造る。
総合建設業
株式会社ヤマリ
平成6年卒
代表取締役　渡邉　伸子
YAMARI　〒010-0065　秋田市茨島四丁目19-59　TEL 018-862-8004

秋高NOW（ナウ）

秋田高校同窓会だより vol.107
AKITA HIGH SCHOOL alumni association news
2020年5月20日

おもてなしの心で

茶道部

茶道部は、研修会館3階でおいしいお菓子とお抹茶に癒やされながら遠州流のお稽古をしています。茶道部員のほとんどは初心者ですが、先生に指導していただいたり部員同士でアドバイスし合ったりしてお点前に磨きをかけています。

また、年に2回お茶会を開いています。上級生のお点前で本格的な茶道を体験できる茶室と、気軽に立ち寄りお菓子とお抹茶が楽しめる喫茶があります。秋高祭の「涼風の茶会」には、秋高生はもちろん、同窓生や保護者のみなさんにも来ていただきます。普段茶道に触れる機会が少ない人たちも多いと思いますが、私たちの活動が茶道を楽しむきっかけになれば嬉しいです。

私たちが大切にしているのはおもてなしの心です。お茶会当日はもちろん、準備の段階からお客さんのことを考えるようにしています。どの方にも心地よくくつろいでいただくために私たちにできることは、目に見えないおもてなしの心をもつことだと思います。

歴史ある秋高茶道部で茶道を学べることに感謝しています。これからもお茶会に向けてお稽古を頑張っていきます。

〔3年　磯崎 ひなた〕

「なごりの茶会」（昨年10月）にて

応援されるチームに

テニス部

私たちテニス部は、東北大会出場を目標に練習に取り組んでいます。

今年度はテニス初心者の部員も多く、日々小さな成長を感じながら「楽しく」プレーすることができています。しかし、「楽しい」だけでは当然試合に勝つことはできません。テニスはプレー歴が大きく影響すると言われるスポーツです。プレー歴の差を埋めるべく、それぞれが向き合わなければならない課題を意識しながら取り組み、部員同士でアドバイスをして互いを高め合っています。

また、技術の向上だけでなく「人に応援されるチーム」になることも大切にしています。練習への取り組み方や試合会場での立ち居振る舞いの中で当たり前のことを当たり前にできる、そんなチームであることがこれまで先輩方が築いてきた伝統を受け継いでいくことだと思います。

私たちの活動は先生方をはじめ、保護者や公共施設の方々の支えがあってこそ成り立つものです。多くの支えに感謝することを忘れず、テニスをできるこの貴重な日々を大切にして目標に向かって頑張っていきます。

〔3年　松橋 康太〕

技術と人間性の向上を目指し練習に励む

事務局通信

新型コロナウィルスは同窓会活動にも大きな影響を与えることとなりました。

2月29日開催の同窓会入会式は簡素に実施。理事会、通常総会は延期となりました。

3月は、一斉休校。部活も中止で学校はひっそりしておりました。4月6日は始業式、翌7日が入学式で活動再開。新入生の晴れやかな姿がまぶしく感じられたのもつかの間、4月13日から再度の休校となってしまいました。

同窓皆様のご健勝をお祈りいたします。（柏）

編集後記

広報委員が新メンバーに切り替わった。前委員長のアドバイスを受けながら編集作業を進めたが、突如現れた新型コロナウイルスの感染拡大の中、多少の混乱があったが完成することができた▼どんな人に執筆してもらおうか――今後編集に当たって頭をひねることになろう。新型コロナの終息を願うとともに、多彩な経歴を持つ同窓生たちとの出会いに期待したい。（菅）

発行者／秋田県立秋田高等学校同窓会　秋田市手形字中台1番地
電話 018－832－9553　FAX 018－832－9588
印　刷／秋田協同印刷株式会社